



脱炭素チャレンジカップ 2021 挨拶



脱炭素チャレンジカップ実行委員会委員長

小宮山 宏

皆さん! 「脱炭素チャレンジカップ 2021」のファイナルステージに、ようこそ!

実行委員長の小宮山宏です。

昨年、開催 10 年目を契機に、低炭素杯から「脱炭素チャレンジカップ」へとシフトアップしました。

そして、その私たちの決意を後押しするかのように、昨年、菅政権が、国の成長戦略の一翼として、2050 年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略を表明されました。

その柱として、「経済と環境の好循環」を掲げるとともに、2050 年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすると所信表明演説で発表しました。

そして、海の向こうのアメリカでも、ようやく誕生したバイデン政権が、早速トランプ政権下で離脱した地球温暖化対策の国際的な枠組み「パリ協定」に復帰するための文書などに署名するなど、前政権からの政策の転換をアピールされています。

これまで歪だった、世界的な環境対策への道筋が開けることになりました。

私たちも、この世界的な流れ、日本の国内の動向に真摯に向き合い、持続可能な「脱炭素」に向けた動きがとにかく早急に必要だと考えています。

まずは、それぞれの立場で「脱炭素」に向けた活動に、気持ちと行動で取り組んでいく、具体的な「やってみよう」というアクションが必要なのです。

残念ながら、今年は全国的な新型コロナウイルスの影響によって、みなさまに集まっていたことが叶わず、一部、皆さんとリモートで繋いだ開催となりましたが、今年もこのコロナ禍に負けず、28 の団体による新たな「脱炭素」社会の構築に向けた取り組みが集まりました。

これらの個々のチカラが集結すれば、それこそ、地球規模での気候変動に立ち向かっていくことも夢ではないと、私は考えます。

さあ皆さん、それでは準備はよろしいでしょうか!

「脱炭素チャレンジカップ 2021」、スタートです!



環境副大臣

筈川 博義

「脱炭素チャレンジカップ 2021」の表彰式にあたり、環境省を代表して、一言、御挨拶を申し上げます。

本日は、28の団体の皆様によるプレゼンテーションが行われ、いずれの団体からも、地域に根ざし、創意工夫に満ちた素晴らしい取組が披露されたと伺っております。

プレゼンテーションをされた皆様におかれましては、大変お疲れ様でした。そして、文部科学大臣賞をはじめ、既に各賞を受賞されました皆様、誠におめでとうございます。

さて、2050年脱炭素社会の実現に向けては、企業や自治体、国民など、あらゆる主体が取り組むことにより、ライフスタイルを脱炭素型へと転換していくことが重要でございます。

そのためには、私たち一人ひとりが、気候変動の危機的な状況を正しく理解し、生活のあらゆる場面で、脱炭素社会づくりに貢献する「製品への買換え」、「サービスの利用」、「ライフスタイルの選択」など賢い選択「COOL CHOICE」を心がけ、気候変動対策を一層進めていく必要があります。

本日参加された皆様には、ここで学ばれた知恵をそれぞれの御地元でも共有していただき、広く地域の皆様に気候変動対策の自発的な行動を促していただき、気候変動対策の輪を、一段と拡げていってくださいますことを、心より御期待申し上げます。

結びになりますが、大変御多忙の中、堅達様には地球温暖化の危機的な状況と、脱炭素社会の実現にむけたパラダイムシフトの重要性についてわかりやすく御講演を頂き、誠にありがとうございました。また、気候変動対策について学びあい、連携の輪を拡げていくための「場」を全国各地にお作りいただいた小宮山先生はじめ実行委員の皆様、貴重なアドバイスを頂いた江守先生はじめ審査委員の皆様、御協賛・御協力いただいた企業・団体の皆様、縁の下からこのイベントを支えてくださった各地域の地球温暖化防止活動推進センターの皆様、そして、本日御参加の皆様方の今後ますますの御健勝と御活躍を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。



文部科学省総合教育政策局社会教育振興総括官

寺門 成真

脱炭素チャレンジカップ 2021 表彰式にあたり、一言御挨拶を申し上げます。

本日、各賞を受賞される皆様、誠におめでとうございます。また、惜しくも入賞には至らなかった皆様におかれましても、それぞれの地域において、素晴らしい取組をされているものと承知しております。皆様の日頃からの御尽力に深く敬意を表します。

昨年十月、菅総理の所信表明演説において、「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことが宣言されました。まさに現在、地球温暖化防止を始めとする持続可能な社会の構築に向けた活動の必要性は、一層高まっております。

文部科学省としても、学校における環境教育の充実や、青少年教育施設における豊かな自然環境を活用した体験活動の推進をはじめ、ライフステージに応じた環境教育の推進に取り組んでいるところです。

この「脱炭素チャレンジカップ」は、地球温暖化防止に向けた取組に関する優れた取組やノウハウを全国に広げていくとともに、プレゼンテーションや資料展示等を通じて、互いに学び合うことにより、持続可能な社会の構築に繋がる、大変素晴らしい取組と考えております。

本日、御参加の皆様、特に小学校、中学校、高校等の皆様におかれましては、学校や地域における環境教育で学んだ様々な経験や知識を活かし、持続可能な社会の実現に向けて、脱炭素、地球温暖化防止に関わる活動に、今後もぜひ積極的に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

結びに、脱炭素チャレンジカップ 2021 の開催に御尽力いただきました小宮山実行委員長をはじめとする関係者の皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、本日御参加の皆様方の益々の御健勝と一層の御活躍を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。